

第三期中期計画（平成29年度～34年度）の概要

平成29年2月28日
公立大学法人岩手県立大学

第三期中期目標（目標期間 平成29年度～34年度）

1 基本姿勢

いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献

未来を切り拓く力を高める
教育

未来創造に資する
地域貢献

教育と地域貢献の根幹となる高い研究力

第三期中期目標では、開学20年の節目を契機とした教育研究組織の検証結果を踏まえた自己改革を進めるとともに、激変する社会環境や地域からの要請に積極的に対応し、地域に根ざした高等教育機関に期待される役割を意識しつつ、教育、研究、地域貢献について更なる充実・強化を求める。

2 基本目標

1 学生の「知的探究心と創造力」を高める大学(教育)

実学実践教育及び地域志向教育を通じ、いわて創造人材(知的探究心、創造力を備え、地域の未来を切り拓く人材)を育成する。

2 新たな価値を創造する大学(研究)

地域社会の基盤形成に資する基礎的研究や実学実践に基づく応用的研究、さらには社会環境の変化に適切に対応し、専門領域を横断した学術研究を推進することにより、新たな価値を創造する。

3 地域の未来創造に貢献する大学(地域貢献)

地域の「知の拠点」として、ふるさと振興の担い手の育成、多様な学習機会の提供、地域の課題解決に向けた取組を行うことにより、地域の活力創出に貢献するとともに、多文化共生社会の実現に向け、地域の国際化を支援する。

4 自主的・自律的な法人運営(業務運営等)

安定した財務基盤の構築、教育研究組織の検証と見直し、大学情報の収集・分析や戦略的な情報発信の強化等により、自主的・自律的な法人運営を実現し、県民から信頼される大学づくりを進める。

第三期中期計画（計画期間 平成29年度～34年度）

1 第三期中期計画期間における基本姿勢

- ◎ 第二期の暫定評価で指摘された課題克服のため、組織的な対応を進展させ、全学的な改革・改善を推進
- ◎ 東日本大震災津波からの復興とその先を見据えた地域の未来づくりに寄与し、地域社会をリードするため、第三期中期目標に掲げられた「いわて創造人材の育成と地域の未来創造」に貢献

2 第三期中期計画の主な内容

【教育】全学的な教学マネジメントの下、各学部の特성에応じた「いわて創造人材」を育成（17の計画項目）
（ポイント）いわての「未来を創造する人材」を育成するため、産業界・地域等との連携のもと、いわてをフィールドとした地域志向教育の充実と学生の主体的学修を促す能動的学習の推進

- ・ 初年次教育や高年次基盤教育など、専門教育との有機的な連携に配慮した基盤教育課程の構築
- ・ 学部横断的に学ぶ副専攻「いわて創造教育プログラム」や各学部の専門を生かした地域志向教育の充実
- ・ 課題解決型授業や演習・実習の充実等による能動的学習の推進
- ・ グローバルな視野を涵養するため、体系的な授業科目の編成と海外研修や留学生との交流機会の拡充
- ・ 効果的な志願者確保と研究科を含めた各課程における入学定員の充足
- ・ キャリア教育やインターンシップ等を通じた確実な就業力の育成と県内就職の促進

【研究】教育と地域貢献を支える研究活動の強化（5の計画項目）

（ポイント）いわての「豊かなふるさと」の創生を支えるための戦略的な研究活動の強化

- ・ 地域ニーズに応じた実践的研究の推進と専門領域を横断した学術研究交流の活発化
- ・ コーディネート機能の充実強化と外部研究資金への応募(申請)、採択の促進

【地域貢献】地域の「知の拠点」として、地域の課題解決とグローバル化に対応（7の計画項目）

（ポイント）いわての「グローバル化」を促進するための多様な文化や価値観の理解促進支援ネットワークの構築

- ・ 地域政策研究センター及びいわてものづくり融合テクノロジーセンターを中心とした産学公連携による共同研究等の実施
- ・ 地区単位の国際交流団体間の支援ネットワークの構築と多文化共生社会の実現に向けた施策の提案と実践
- ・ 東日本大震災津波からの復興及びふるさと振興に向けた取組(学生ボランティアのノウハウの継承、各学部の特性を活かした協働事業等)の推進と「ふるさといわて創造プロジェクト」の継続実施

【業務運営等】教育研究活動を支える自主的・自律的な法人運営（16の計画項目）

- ・ 大学情報のデータを総合的に分析・活用・情報発信する体制(IR)の整備
- ・ 研究科の再編等教育課程や教育研究組織の見直し・再構築
- ・ 大学運営に必要な教職員の能力・資質向上のため、FD(ファカルティ・ディベロップメント)とSD(スタッフ・ディベロップメント)を融合させた研修等の実施
- ・ 男女共同参画における本学の基本方針の下、ワークライフバランスに配慮した環境の整備
- ・ 学生納付金や外部資金の積極的な確保に加え、同窓会組織の充実強化等による寄附金収入の確保

3 内部質保証システムによる進行管理

- ・ 全学共通の中期計画を基に、部局個別の6年間の計画を策定。また、中期計画を確実に達成するため、各学部及び各本部等においては、6年間の工程表を作成
- ・ 中間(4年後)及び最終(6年後)段階における「目指す成果・達成状態」とともに、達成度のメルクマールとして「数値目標」を設定

ふるさとの未来を拓き、未来を担う人材を育む「学びの府」として地域に貢献